

「今、辞表を書かないと、君の経歴に傷が付くよ」

2005年4月、電子部品メーカーに就職した井上考史(28)はわずか1カ月後、上司からそう告げられた。度重なる居眠りなどが理由だった。「はい」。力なぐさなくほかなかった。

その症状は、後に睡眠障害と診断される。だが当時は、ただただ自分を憎んだ。「構造改革」が進み、景気が拡大していると言われたが、とてもそんな実感が持てない就職難の中、正社員というレールの入り口を探し続けた。

3社目で、症状に苦しむ考史に社長が言った。「自分をきっちり受け入れた方がいい。病気が治れば戻ってこい」。最初の就職から4年間、ずっとこわばっていた全身から力が抜けた。空き家になった神戸の自宅は「和薬居」という名のシェアハウスにして

# つながる場所

## バブル(後)世代の幸福論



考史さんが企画したパーティー。住人や友人ら20人以上が集まり、ゲームなどで交流した＝神戸市垂水区(撮影・山崎 竜)

いたが、その住人の一人になることにした。「自分に合った生き方を探してみよう」

和薬居での日々は、会社員の暮らしとは全く違った。共同生活の中で子育てする人、農業を目指す人。住人たちと同じ時間を過ごすうち、見慣れたはずの家が全く違って見えるようになった。

## 心から笑う時間がある

「みんなの夢がかなっていいわりに心から笑える時間がある場所になりたい」。考史はシェアハウスのオーナーとして、のりがいをつかむ。パーティーなど人を集める仕掛けづくりも楽しい。「正社員時代より収入は少ない。でも、代々、心のバランスを崩し、会

社を休職した。インターネットで偶然見つけたのが農業体験プログラム。すぐに参加した。住民と交流し、自分の手で食べ物を作る。探していた感触に出会えた。

会社を辞め、農業を勉強し始めた。今は早朝から市場で働き、野菜の流通を学ぶ。3月にも同じ部屋に住む由良明子(30)と淡路島に移り、農業を始めるつもりだ。

人が緩やかにつながり、未来に向けて歩む。考史は、そのための「人間接合剤」でありたいと言う。「こんな生き方もいいかもしれない」。レールへのこだわりを捨てたわけではないが、今はそう思い始めている。(敬称略)

### ②レールの外

1980	ボート	高度成長
1981	ボート	高度成長
1982	東京リニ	高度成長
1983	東京リニ	高度成長
1984	東京リニ	高度成長
1985	東京リニ	高度成長
1986	東京リニ	高度成長
1987	東京リニ	高度成長
1988	東京リニ	高度成長
1989	東京リニ	高度成長
1990	東京リニ	高度成長
1991	東京リニ	高度成長
1992	東京リニ	高度成長
1993	東京リニ	高度成長
1994	東京リニ	高度成長
1995	東京リニ	高度成長
1996	東京リニ	高度成長
1997	東京リニ	高度成長
1998	東京リニ	高度成長
1999	東京リニ	高度成長
2000	東京リニ	高度成長
2001	東京リニ	高度成長
2002	東京リニ	高度成長
2003	東京リニ	高度成長
2004	東京リニ	高度成長
2005	東京リニ	高度成長
2006	東京リニ	高度成長
2007	東京リニ	高度成長
2008	東京リニ	高度成長
2009	東京リニ	高度成長
2010	東京リニ	高度成長

失われた10年

格差社会